

森のちやれんがニュース

2017春

北海道博物館
HOKKAIDO MUSEUM

Newsletter vol.7



皇太子殿下が北海道博物館をご視察されました

平成29年2月18日から20日までの3日間、天皇陛下のご名代として第8回冬季アジア札幌大会の開会式にご臨席するため北海道を訪れていた皇太子殿下が、開会式に先立つ19日午前、北海道博物館をご視察されました。

1階展示室では、北海道で初めて国宝に指定された中空土偶のレプリカを手にとってご覧になりました。また、おもにサハリン（樺太）のアイヌ民族が伝えてきた弦楽器トンコリを即興で演奏される場面もありました。

2階展示室では、平成19年に天皇陛下から北海道にご下賜いただいた、昭和

初期の北海道の産業などを記録したフィルム映像をご覧になりました。また、北海道の生き物たちのつながりや、現在生じている環境問題などの説明には、熱心に耳を傾けてお聞きになりました。

皇太子殿下は、1階プロローグにある北東アジアの床地図やナウマンゾウとマンモスゾウの全身骨格標本にも大変興味をもたれ、「北海道120万年物語」、「アイヌ文化の世界」などのテーマに沿ってご視察になり、よく考えて展示してありますねとお話を下さいました。



CONTENTS

- ② 総合展示室の活動紹介
「北海道博物館をより楽しむために」 出利葉 浩司
- ③ 企画テーマ展予告
「夜の森」で動物を探そう! 表 溪太
- ④ 研究活動紹介
「漂着物の魅力を紹介」 圓谷 昂史
- ⑥ 博物館スタッフインタビュー
副館長 吉田 公伸 / 設備スタッフチーフ 南 雅文
- ⑦ アイヌ民族文化研究センターだより
「久保寺先生・久保寺逸彦文庫とわたし」 佐々木 利和
- ⑧ 行事のおしらせ / 活動ダイアリー

総合展示室の活動紹介

北海道博物館をより楽しむためにクローズアップ展示のご紹介ー

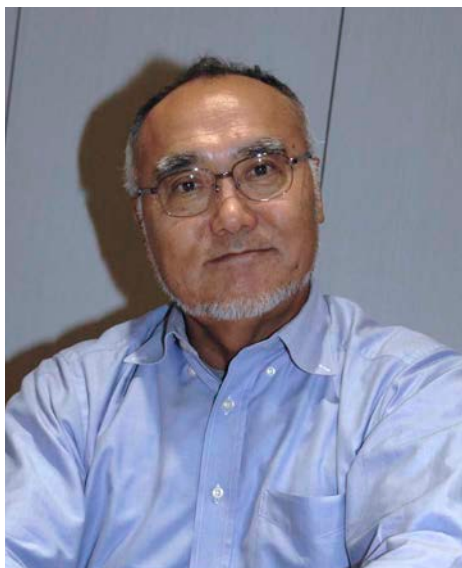
博物館や美術館では、頻繁に展示物を交換するところと、そうでないところがあります。どちらかというと美術館では、保存上のこともあり、頻繁に入れ替えするところが多いようです。一方、自然や人間社会の移り変わり、くらしなどを展示する博物館では、固定的な展示方法となりがちです。

歴史博物館であった北海道開拓記念館では、あたかも物語りの挿絵のように、資料を固定的に展示していました。「常設」展示と呼んでいたのはそういう意味もあったのです。

もちろん、博物館の展示方法には、さまざまなやり方があり、これが正しいということはないのですが、それでも、資料が入れ替わらない固定的な展示をご覧になられた方は、「いつ行っても同じだね」という印象をお持ちになる方が多かったのではないかと思います。「あそこは、一回行けば、もいいいや…」ということになっては、わたくしたちはこまるのです。

北海道博物館を開館するにあたり、このことは、わたくしたちにとって、おきな課題でした。北海道博物館の資料は約18万件にもなります。このすべてが展示に耐えうるもの、展示を目的として収集したものばかりではありません。それでも、多くの資料は、みなさんに見ていただけるチャンスをとのしみに待っているのです。

そこでわたくしたちは「常設」展示室内に、展示を入れ替えることのできる7箇所のスペースを作りました。単に収蔵資料を陳列するだけではない、より詳しく掘りさげて説明してみよう。新着資料など話題となった資料もすぐにご覧いただきたい…そのような思いも込めて「クローズアップ展示」と呼んでいます。それぞれのケースはだいたい3ヶ月ぐらいで展示替えです。「常設」ではなく、「総合展示」と呼ぶことにしたのは、そうした意味も込めてのことなのです。



学芸員 出利葉 浩司

1954年、福岡市生まれ。1980年より北海道開拓記念館（現北海道博物館）学芸員。専門は文化人類学。



総合展示室第3テーマ「北海道らしさの秘密」にあるクローズアップ展示5「土産品店の店さき」（2016年12月7日～2017年4月7日）「おみやげといたら、クマ？」を掘り下げてみました。



工芸作家故杉村京子さんが使用した工具



旭川市にあった土産品店「チカラベ舎」の店先を飾った工芸品

新選組の元幹部隊士、永倉新八の資料をはじめ、毎年恒例の展示になっているものもあります。クローズアップ展示の展示資料は、北海道博物館の『行事あんない』や、ウェブサイトでご覧いただけます。

出利葉 浩司(学芸員)

企画テーマ展予告

「夜の森」で動物を探そう！

みなさんは夜の森を歩いたことがあるでしょうか？

北海道博物館は自然豊かな野幌森林公園の縁に建っています。森林公園の中を歩いているとたびたび野生動物と出会うのですが、昼と夜では見かける動物の種類が違ってようです。実は、多くの動物は日中よりも夕方や夜中に活発に動きまわっているのです。夜の森と聞くと真っ暗で怖いというイメージがあるかもしれませんが、慣れてくると星明かりで道をたどったり、大きな木の根元で夜を明かししたりするのはとても楽しいものです。ちなみに私は小学生の頃から、ときどき夕暮れ時や夜明け前に家を抜け出しては裏山や川で遊んでいました（よい子はマネしないでください）。森の中で静かに耳をすませていると、動物たちの気配が伝わってきます。キツネの軽やかな足音やノネズミが落ち葉をかきわける音、フクロウやエゾシカの鳴き声など。動物たちは森の中で、どんな風に生きているのでしょうか？



学芸員 表 溪太

1987年生まれ。東京都出身。2015年より現職。専門は動物学。博士（理学）。写真は展示室での設営作業の様子。

今回の企画テーマ展「夜の森—ようこそ！動物たちの世界へ—」（2017年4月28日～6月4日）では、そんな普段は見ることのできない動物たちの暮らしをご紹介します。北海道の森をイメージした展示室をめぐって動物たちのすがたを探してみましょう。夜の雰囲気になるべく五感で楽しんでもらえるように、いろいろなからくりを用意してお待ちしています。

また、実際に夕暮れの野幌森林公園でコウモリを探す観察会や、シマフクロウについての最新研究を紹介する講演会も予定しています。今年の春はぜひ北海道博物館の「夜の森」に足をお運びください。

表 溪太（学芸員）



木の上のエゾフクロウ（剥製）



夕暮れの野幌森林公園



走るエゾキウサギ（剥製）

研究活動紹介

漂着物の魅力を紹介

研究職員 圓谷 昂史

1988年、札幌市生まれ。2013年より北海道開拓記念館(現北海道博物館)研究職員。専門は古生物学。写真は余市町の海岸での漂着物調査。



漂着物とは、海から陸に流れ着いた全ての物のことをいいます。小さな貝殻から大きなクジラ、身近な物から海外からやってきた物まで、実に様々な物が見つかることから、漂着物は「渚の百科事典」とも呼ばれます。また、それぞれの特徴を詳しく調べ、種類や産地を明らかにすることで、ゴミ問題などの環境問題や地域の自然環境を考えるきっかけとなることから、近年では、特にこれらの環境へのアプローチ方法として注目されています。

これまで私は、北海道の漂着物の実態や環境との関連を明らかにするため、北海道(離島を含む)の100か所以上の海岸で調査をしてきました。

2016年10月14日~11月27日には、多くの方に北海道の漂着物を知ってもらい、興味を持ってもらえるような機会となることを目指して、第6回企画テーマ展「きれい？ 不思議？ 楽しい！？」漂着物 一北の海辺でお宝みつけ！」を開催しました。この展示会では、私を含む博物館の展示チームメンバーが集めた資料や研究成果をはじめ、道内の漂着物を扱う博物館、研究者や愛好家からお借りした資料も合わせ、1,500点を超える漂着物を展示しました。

漂着物は、人工物(漁具、生活用品、おもちゃなど)と、自然物(貝殻、木の実、化石や鉱物など)に大きく分け、さらに種類ごとに細かく分類して展示

しました。人工物では、ガラス浮きが人気でした。見た目がきれいであることはもちろん、その大きさや形、色にもたくさんの種類があることに興味を持っていただけたようです。最近では、プラスチック製の浮きが使われるため、ガラス浮きを拾える機会は少なくなりましたが、太平洋やオホーツク海側の海岸では、まだ稀に漂着することがあります。また、ガラス浮きをよく見てみると、製造会社や網元の屋号を記した刻印が残っているものがあります。中には外国語が記された物もあることから、日本以外でも使われていたことがわかります。また、種類を集めるだけでなく、製造方法や歴史的な背景に興味を持って調べるコレクターもいるほどです。

自然物では、鉱物(宝石)が特に人気でした。これらの鉱物は、海岸近くの地層や岩の中から取り出されたものです。海の中で転がったため丸くなっていますが、目を引く美しさから、これもまたコレクターがいるほど人気が高いものです。

また、北海道は国内で唯一、日本海、太平洋、オホーツク海の3つの海に囲まれており、日本海側の対馬海流(暖流)は南から北へ、太平洋側の千島海流(寒流)は北から南へと流れています。そのため、北海道の海岸には、北と南の両方からの漂着物と出会えるという特徴があります。例えば、自然物では南からのヤシの実(ココヤシ)やアオイガイの漂着が知られるようになってきています。これらの漂着物の発見数は、年による変動がみられ、継続した調査を行うことで、地球温暖化や海的环境変化との関連を明らかにできる可能性があります。

人工物には、日本の物だけではなく中国や台湾、韓国、ロシアなど近隣諸国からの物も見つかります。特に、漁具の浮きはほとんどがプラスチック製ですが、アルミや鉄などの金属や白樺

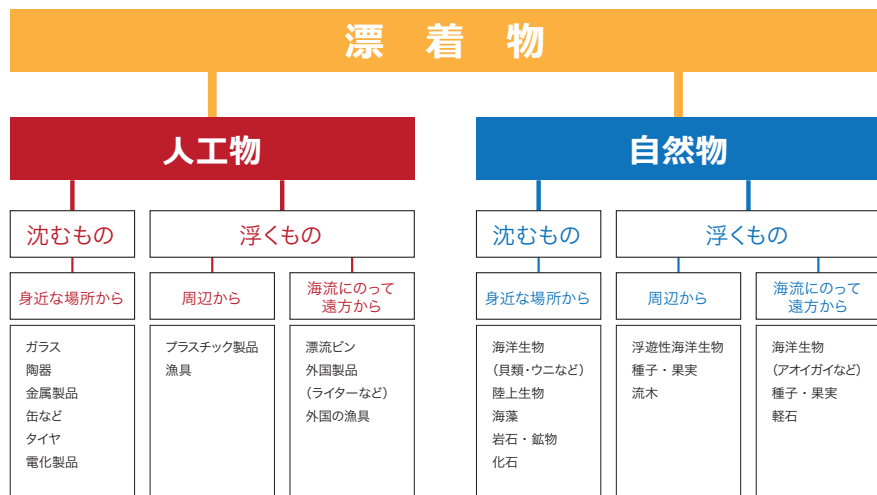


図1 漂着物分類図



展示室風景



ガラス浮きに記される製造会社や網元の刻印を紹介したコーナー



ジャスパー・メノウ・アメシストなどの漂着鉱物を紹介したコーナー



白樺の樹皮で作られた浮き(いしかり砂丘の風資料館所蔵)

の樹皮を使って作られた珍しいものも見つかります。人工物は海岸を汚すゴミと思ってしまいがちですが、他の国とも海で繋がっていることを改めて実感させてくれたり、国による道具や文化の違いを教えてくれたり、自分たちの日々の暮らしを考え直させてくれます。

今回の展示会は、漂着物を単なるゴ

ミとしてではなく、見方を変えることで多面的な広がりや楽しみ方があるという魅力を紹介しました。北海道は夏が短いため海に行く機会は少ないかもしれませんが、この展示会を海へ出かけたときに漂着物に目を向ける、そして漂着物から自分たちの生活や身のまわり自然について考えるきっかけとしていただけましたら幸いです。

今回の企画展の開催にあたり、道内外の関係者の皆様には、様々な場面でご指導・ご協力をいただきました。この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

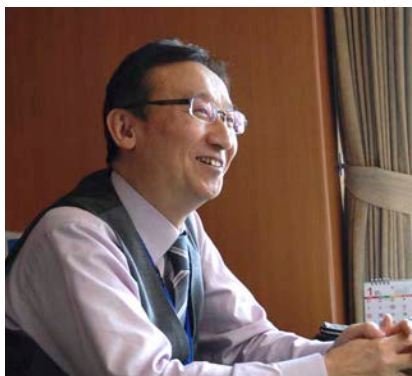
圓谷 昂史(研究職員)



南からやってきたアオイガイ

博物館スタッフインタビュー

先生方の声を聞き、より利用しやすい博物館へ



副館長 吉田 公伸

1956年、岩見沢市生まれ。2015年より現職。89年のはまなす国体をはじめ、長く広報の仕事に携わった経験を生かし、館の広報活動を牽引する。



研修会の様子

はっけんプログラムを紹介し、先生方も体験参加。写真は火おこし体験の様子。

2017年1月、当館と北海道開拓の村は、小・中・高等学校の教員を対象に、「博物館教育プログラム研修会」を開きました。企画に携わった吉田副館長にお話をうかがいました。

—— 企画の目的はなんですか。

当館と開拓の村は、学校団体の利用に向けた、様々な教育プログラムを用意しています。まずはそれを、見て、触れて、確かめて、どんなことができるのか知ってもらうことが、目的の一つです。そして、もっとこうした方が学校としては勝手が良い、などの、先生方のニーズを聞くこと、これが一番の狙いです。二つの施設には今、年間約600校の利用があります。その数をもっと増やしたい。先生方の意見をもとに、より学習の狙いに沿ったプログラムや教材をつくりたいと考えています。

—— どんな意見が得られましたか。

例えば、授業で博物館を利用するには手間や準備がたいへんなのではと思

い、今まで足が向かなかったが、博物館職員が一緒になって利用の仕方を考えてくれると知ったので、どんどん相談して活用したいという声をいただきました。また、生徒が自ら課題を見つけて考える、アクティブラーニングに活用出来るとの指摘もあり、館のセールスポイントを教えられました。

—— 今回は第一弾とのことです。

今後も継続して行いたい、また、対象の幅を広げたいとも考えています。例えば幼稚園の先生方の声も聞きたい。「難しそうに見える展示でも、うちの園児たちは興味を示すんですよ」。保育士さんのこんな言葉を耳にし、博物館が幼児教育の場となる可能性を強く感じました。昨年のジオパーク展で、恐竜に釘付けになっていた幼児たちの表情が忘れられません。博物館での体験が身体に刻まれる現場を目の当たりにし、感動しました。より多くの方に、その機会を提供したい。活動の周知は、そのための大事な使命だと考えます。

文化財を守るために、小さな変化を見逃さない

博物館の温度・湿度を適切に保つことは、博物館の収蔵資料の保管のために、重要です。当館では、8名のスタッフがそれを管理しています。チーフの南さんにお話をうかがいました。

—— 仕事内容を教えてください。

博物館内の各部屋・各場所が、定められた温湿度を保つよう、機械を設定し、その動作を監視します。いつでも、機械の設定通りの温湿度になるとは限りません。建物の外の温湿度や、部屋の中にあるものの量や質などにより、設定値との誤差が生じる場合があります。その誤差を調整するのも、わたしたちの仕事です。

—— これまで勤められた他の施設と、当館とは、どう違いますか？

人よりも、展示室の展示物や、収蔵庫内の資料に合わせて、温湿度を設定することが、まず違います。さらにこ

の博物館は、国指定の文化財（国宝や重要文化財）の公開に適した施設と認められた「公開承認施設」ですので、博物館のなかでも特に厳密な温湿度管理が求められます。展示室や収蔵庫の温湿度変化はつぶさに観察し、気になることがあれば、学芸員と相談し、原因を突き止め、対処します。天候の変化や、人の出入りの増減など、一見些細なことでも、温湿度に影響を及ぼします。日々の小さな変化を見逃さないことが、文化財を守るために、大切な姿勢だと考えます。



設備スタッフチーフ 南 雅文

(イオンディライト株式会社)

1969年、旭川市生まれ。病院や商業施設などを経て、2010年より現職。設備スタッフ8名で、他の職員が休みの休館日も含め、365日、館内の温湿度環境を管理し、博物館資料を守ります。



機械室 温湿度管理のための大きな機械が並ぶ

アイヌ民族文化研究センターだより

久保寺先生・久保寺逸彦文庫とわたし



1970年6月東京都新宿で開かれた「アイヌ服飾展」にて 久保寺逸彦(右) 佐々木利和(左)

非常勤研究員 佐々木 利和

1948年、北海道陸別生まれ。東京国立博物館、文化庁、国立民族学博物館を経て、2009年より北海道大学アイヌ・先住民研究センター所属。現在は同客員教授。専門は近世史、アイヌ文化史。博士(文学)。

久保寺逸彦—この名前をご存知の方は、あまり多くはないでしょうか。アイヌ民族の文化に関心のある方ならば、アイヌ語研究の礎を築いたとされる金田一京助先生や、登別出身の知里真志保さんの名はご存知だろうと思います。久保寺先生は、金田一先生のアイヌ語研究の数少ない教え子の一人であり、その点では知里さんの先輩に当たる方で、アイヌ口承文芸や宗教儀礼の研究に大きな足跡を遺されました。

久保寺先生は1902(明治35)年網走で生まれ、中学校の頃まで北海道で過ごしました。國學院大学に進学し金田一京助先生と出会って、アイヌ語アイヌ文学の研究を志します。卒業後は東京府立第七中学校(現在の都立隅田川高等学校)教諭などをつとめ、研究者としては決して恵まれていたとは言えない条件のもと、コツコツとアイヌ語の資料を集め、整理を続けました。

そんな中でも大きな意味を持ったのは、1934(昭和9)年ごろから37年ごろにかけて、当時はまだ貴重だったレコード盤を使ってアイヌ語を録音し、16mmフィルムで宗教儀礼の様子を撮影するなど、多くの記録を遺したことです。アイヌ語の記録といえば、古いものでは20世紀初頭にB.ピウスツキが録音したロウ管などがありますが、久保寺先生のお仕事は、今から80年以上も前という年代の古さ、レコード盤だけでも



樺太の新間(にとい)での録音風景(1935年撮影)
いま当館で展示しているマイクは、このとき使ったものだと思います

541枚が遺されているボリューム、北海道と樺太(サハリン)の各地で録音されたという地域の多様性などの点で、質量ともに他に類を見ないものではないでしょうか。

久保寺先生の研究の大きな特色は、長年にわたってアイヌ語の録音や筆録などを積み重ね、その整理と訳注などの基礎的な作業にたいへん力を注がれたことです。しかしそのためもあって、生前にはご自身の著作をほとんど公刊されることなく、1971(昭和46)年、最初の著作というべき『アイヌの昔話』の出版を目前に、病のため亡くなりました。

当時まだ二十歳そこそこの若輩者ながら、直々にアイヌ語やアイヌ文化の

手ほどきを受けていた私は、校正のお手伝いをさせていただきながら、この著が世に出る喜びと、あと少しの時間を先生に…という、喻えようのない切ない気持ちだったことを、今も覚えています。

遺された膨大な資料は、ご遺族のご厚意により1997(平成9)年に道立アイヌ民族文化研究センターに収蔵され、整理が進められてきました。2015(平成27)年の北海道博物館発足に伴い、いま北海道博物館で大切に保管され、一部は総合展示などで紹介されています。博物館にお越しのときは、ぜひご覧ください。

佐々木 利和(非常勤研究員)

行事のおしらせ

4月～6月

展示会

第8回企画テーマ展

夜の森-ようこそ!動物たちの世界へ-

4月28日(金)～6月4日(日)

特別展示室・無料



第3回特別展

プレイボール!—北海道と野球をめぐる物語—

7月8日(土)～9月24日(日)

特別展示室・有料



※ 行事の申し込みについては、『行事あんない2017年度前期』もしくはウェブサイトをご覧ください。

イベント

自然観察会

エゾアカガエル合唱を聞こう

4月22日(土)10:00～12:00

野幌森林公園内(自然ふれあい交流館集合)・無料
 講師/堀繁久・水島末記・表溪太・濱本真琴・扇谷
 真知子(自然ふれあい交流館)
 定員/先着40名(事前申込、3月23日(金)より受付)

ミュージアムカレッジ

最新研究報告—北海道と極東ロシアのシマフクロウ—

4月30日(日)13:30～15:30

講堂・無料
 講師/竹中健氏(シマフクロウ環境研究会代表)、表溪太
 定員/先着80名(事前申込、3月31日(金)より受付)

自然観察会

「あなたの街のコウモリの森」in野幌森林公園

5月20日(土)17:00～19:30

講堂(トーク)/野幌森林公園内博物館近く(観察会)
 無料
 講師/中島宏章氏(フリーランス写真家)、堀繁久、
 水島末記、表溪太
 定員/先着40名(事前申込、4月21日(金)より受付)

講演会

昆虫写真家 海野和男の生きものの写真のスズメ

5月28日(日)13:30～15:30

講堂・無料
 講師/海野和男氏(生きものの写真リトルリーグ実行委
 員長)
 定員/先着50名(事前申込、4月29日(土)より受付)

ちやれんがワークショップ

縄文土器をつくる(全2回)

第1回:6月4日(日)10:30～15:30(講堂)

第2回:6月25日(日)10:30～15:30(江別市セラミック
 アートセンター)
 無料

講師/右代啓視・鈴木琢也

定員/先着40名(事前申込、5月5(金)より受付)

ミュージアムカレッジ

学校をつくる—近代北海道のアイヌ民族による小学
校設置の取り組み—

6月11日(日)13:30～15:30

講堂・無料
 講師/小川正人
 定員/先着80名(事前申込、5月12日(金)より受付)

自然観察会

「北海道フラワーソン」に参加しよう!

6月18日(日)10:00～12:00

野幌森林公園内(自然ふれあい交流館集合)・無料
 講師/堀繁久・水島末記・表溪太・濱本真琴・扇谷
 真知子(自然ふれあい交流館)
 定員/先着40名(事前申込、5月19日(金)より受付)

ちやれんがワークショップ

石器をつくる

7月9日(日)10:30～15:30

北海道博物館正出入口の西側広場(雨天の場合正面入
 口付近あるいは講堂)・無料
 講師/本吉春雄氏(湧別川流域史研究会)、右代啓視・
 鈴木琢也
 定員/先着40名(事前申込、6月10(土)より受付)

特別イベント

北海道ジオパークまつり2017

7月15日(土)10:00～16:30

講堂・無料
 定員/なし(事前申込不要、直接会場へおこしだ
 さい)

講演会

一途一心の野球道(みち)

7月16日(日)13:30～15:30

講堂・無料
 講師/山崎夏生氏(NPB審判技術委員)
 定員/先着80名(事前申込、6月17日(土)より受付)

活動ダイアリー

1月～3月

- 1月4日 酉年にちなみロビーにタンチョウのぬいぐるみを展示(～15日)
- 1月7日 ちやれんが子どもクラブ「稲わらで縄をつくって、長なわとびに挑戦!」開催
- 1月8日 ちやれんが講座「古文書講座③ はじめての古文書・続編」第1回開催
- 1月12日 博物館教育プログラム研修会開催(～13日)
- 1月14日 ちやれんが子どもクラブ「いのりのしるし? 絵馬づくりにチャレンジ」開催
- 1月15日 CISEサイエンス・フェスティバルin新千歳空港に出展(～20日)
- 1月21日 ちやれんが子どもクラブ「アイヌ語であそぼう!」開催
- 1月21日 CISEサイエンス・フェスティバル2016 in チ・カ・ホに出展(～22日)
- 1月22日 ちやれんが講座「古文書講座③ はじめての古文書・続編」第2回開催
- 1月25日 京都府議会文化・教育常任委員会が視察
- 2月3日 第7回企画テーマ展「あったかい住まい—北海道・住まいの道のり—」開幕(～3月31日)
- 2月3日 秩父宮記念スポーツ博物館北海道巡回展「2020年東京オリンピック・パラリンピックがやってくる」開幕(～3月17日)、開会式、トー

- クイイベント「金メダリストが語るオリンピック・パラリンピック～過去そして未来へ～」開催
- 2月5日 ちやれんが講座「古文書講座③ はじめての古文書・続編」第3回開催
- 2月7日 休憩ラウンジに「北方領土啓発展示コーナー」を開設
- 2月12日 山本幸三地方創生担当大臣が北海道開拓の村と当館を視察
- 2月18日 ちやれんがワークショップ「自然観察会⑤ 動物の足跡を追いかけよう」開催
- 2月19日 皇太子殿下が当館をご視察
- 2月26日 ちやれんが講座「古文書講座④ 古文書に親しむ」第1回開催
- 3月4日 第31回「野幌森林公園クマゲラー斉調査」を共催(主催:野幌森林公園を守る会)
- 3月12日 ちやれんが講座「古文書講座④ 古文書に親しむ」第2回開催
- 3月26日 ちやれんが講座「古文書講座④ 古文書に親しむ」第3回開催
- 3月30日 平成28年度第2回北海道立総合博物館協議会を開催
- 3月31日 『北海道博物館研究紀要』第2号発行
- 3月31日 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第2号発行

来館者数

○2016年12月～2017年2月

総合展示室 6,704人 特別展示室 6,418人 はっけん広場 1,981人

○累計(2015年4月～2017年2月)

総合展示室 253,255人 特別展示室 187,030人 はっけん広場 61,072人

森のちやれんがニュース 第7号

発行日:2017年3月31日

編集・発行:北海道博物館

〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2

Tel. (011) 898-0456 Fax. (011) 898-2657

ウェブサイト <http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp>

©Hokkaido Museum, 2017